

学術の大型研究計計画検討分科会（第17回）議事要旨

- 【日時】 2011年2月7日（月） 16:00～18:30
- 【会場】 日本学術会議 5-C会議室
- 【出席】 岩澤委員長、海部幹事、長野幹事、浅島委員、小林委員、鈴木委員、平委員、永宮委員、矢川委員、山岸委員、山本（正幸）委員
事務局：石原参事官、中島調査員、他
- 【欠席】 山本（眞鳥）副委員長、大垣委員、五條掘委員

【議題】

- 1) 前回議事要旨（案）の確認
- 2) 委員自己紹介（新委員紹介）
- 3) 第3回調査結果の検討と取りまとめの分担について
- 4) 今後の進め方について
- 5) その他

【資料】

- 資料1 前回議事要旨（案）
- 資料2 第3回学術の大型研究計画に関する調査票
- 資料3 第3回学術の大型研究計画に関する調査結果（一覧表）
- 資料4 第3回学術の大型研究計画に関する調査結果
- 資料5 今後の進め方（案）
- 参考1 委員名簿
- 参考2 学術の大型施設計画・大規模研究計画－企画・推進策の在り方とマスタープランの策定について－
- 参考3 最先端研究基盤事業 補助対象事業（文部科学省大型計画採択一覧表）

【議事】

- 1) 第16回分科会議事要旨等について
前回分科会議事要旨案（資料1）が提案され、原案通り承された。
また、資料2、3、4については非公開とすることが承認された。
- 2) 新委員の紹介について
新たな分科会委員（小林、山本（正幸）、矢川各委員）が紹介された。
- 3) 「第3回学術の大型計画に関する調査結果」資料の整理について
配布資料（資料2、3）に提出側の誤解も含め混乱があることが指摘された。

特に既定の 43 計画に関しては、各分野の担当委員が十分に精査し、明確な資料として整理することとなった。具体的には、①旧計画のまま、②修正版提出、③辞退、の別を明確にした 43 計画の表をまとめる。文科省の「最先端研究基盤事業」において実施が決まった計画（参考資料 3）についても、その旨が分かるようにする。また、提出したが何らかの事故で事務局に届いていないものがある場合は、担当委員が精査した上で事務局に届け、資料に入れるよう計らう。

各分野の担当委員は、精査の結果を 3 日程度以内に事務局に通知し、事務局はそれに基づいて、早急に新資料を作成することとした。

4) 新委員を含めた分野の分担について

今後の分野ごとの提案整理やヒアリングのアレンジを担当する分科会委員については、新たな委員を含めて、人文社会科学分野については山岸、山本（眞鳥）、小林各委員、生命科学分野については長野、浅島、山本（正幸）各委員、理学工学については海部、平、永宮、矢川各委員が、それぞれ相談の上分担することとなった。

5) 今回の提案の検討と取り扱いについて

- ① 今回の改訂の考え方としては、前回は初めての試みでもあり、1 年目ではあるがマイナーな改定を行うこととしていた。しかし文科省の「最先端研究基盤事業」に少なからぬ計画が部分実施も含めて採用されたことに伴う変更、またこれまで大規模研究の議論が進んでいなかった分野でもコミュニティの議論が進んでいるところが少なくない現状を踏まえて、やや改訂の規模が膨らむことを想定する。ただし策定からまだ 1 年であること、2 年後には 3 年に一度と規定した大改訂があること、マスタープランの性格と信頼性からも、大幅な数の増加は想定しないこととする。
- ② 提案された各計画のヒアリングを実施する。ただし、マスタープランに既定の 43 計画についても、その後の変更も含め分野ごとに新規分と併せてヒアリングを行い、分野ごとの総合的・俯瞰的状况を分科会として十分に共有できるようにする。ただし新規分については、大型研究計画（大型施設計画・大規模研究計画）のリストアップ基準（参考資料 2、マスタープラン「提言」の 9 ページ・10 ページ）に基づき、それに合致しそうなない計画については上記の分野の担当分科会委員があらかじめ精査し協議して、ヒアリングすべき候補計画を精選しておくこととする。
- ③ ヒアリングにおける説明者は、可能な限り当該計画と直接の利害関係を持たず、かつ俯瞰的に広い分野を見わたすことができる方に依頼し、そ

れぞれ若干数の計画（規定 43 計画も含む）をレビューしていただくこととする。説明者と説明する計画については、分野担当委員がアレンジして事務局に連絡し、後で定めるスケジュールにより実施する。

6) 今後のスケジュールについて

資料 5 に基づいて検討し、当面のスケジュールを以下のように決定した。

- ① 物理、宇宙、地球惑星分野については、基本的に 3 月 7 日（月）、14 日（月）、16 日（水）（それぞれ 9 時 30 分から 12 時）の 3 回でヒアリングを行う。海部、平、永宮各委員が、説明者を含め早急に調整する。
- ② 生命科学分野については、基本的に 3 月 23 日（水）、4 月 6 日（水）（それぞれ 9 時 30 分から 12 時）にヒアリングを行う方針で、長野、浅島、山本（正幸）各委員が協議し具体化を進める。
- ③ さらに 4 月末までに人文社会科学分野、工学各分野のヒアリングを行うこととし、山岸、小林、山本（眞鳥）、矢川各委員を含めて具体化を進める。
- ④ 4 月・5 月については、事務局が早急に日程調整を行う。

7) その他の事項

大型計画マスタープラン全般について、以下のような議論が交わされた。

- 各分野で大きな展望を持った大型計画の検討の必要が認識され、検討組織の形成や議論が進んでいる。人文社会科学分野、生命科学分野、地球惑星科学分野などの例が紹介された。今後のマスタープランの充実、学術コミュニティの強化、新たな学術領域の創成が期待される。
- 今回、非常に巨大な国家プロジェクト的計画も出てきており、独立行政法人による国策的計画への対応も含め対応が議論された。トップダウンの国策的計画であっても、科学の推進が詠われる場合には学術コミュニティを代表する日本学術会議として学術面での価値や影響、コミュニティの合意などの面で評価していくのが適切である。ただしマスタープランに含める場合の具体的な扱いには考慮すべき点もあろうし、予算・政策への反映プロセス等に関しては、今後着実に検討を続けるべきである。

次回は 3 月 7 日 9 時半から 12 時とし、第 1 回ヒアリングを行う。
以上。